

MMジュニア編集局の記者たちが、まちを取材し、記事を書きました。
すべての記事はのせられないので、抜粋になります。ウェブサイトからすべての記事がみられます→→→



歯科技工士・歯科衛生士の
苦労と魅力

小6 中沢 瑞帆

みなとみらい学園横浜歯科医療専門学校では、歯科衛生士・歯科技工士を目指す学生がさまざまな技術を身につけています。

今回の取材でこの仕事をことを深く知りました。

まず、大変なのが、見ず知らずの人の口の中を触ることです。医療人は「この人は治療したくありません」などと、人を選ぶということはできません。だから誰でも受け入れられる人、つまり人好きじゃないとできない仕事なのです。

また歯科技工士は、入れ歯、歯の被せ物、歯の詰め物、矯正装置などの作成や加工修理が仕事です。一人ひとり、口の形が異なるので手作りです。長時間の作業なので集中力も必要です。

このように、歯科衛生士・歯科技工士の仕事は誰にでもできる仕事ではありません。ですが、とても魅力のある仕事もあります。この二つの仕事は、両方とも国家資格が必要とします。歯科衛生士は、経験と年数で安定した収入を手に入れられます。さらに、高い初任給や高い求人倍率が期待できます。また、歯科技工士は、経済状況に左右されないため就職に強いです。将来は、独立開業も可能です。これから高齢社会となり、入れ歯を使用する人が増えていくので需要があります。これから将来必要となる仕事なのです。大変ですがとてもすてきな仕事だと知りました。私たちが取材を行った時、みなさん優しく接してくれました。人が好きなんだ、よくわかりました。

横浜歯科医療専門学校へ行って

高1 平石 莉子



横浜歯科医療専門学校は歯科衛生士学科と歯科技工士学科の2つがあります。歯科衛生士は歯科予防処置や歯科保健指導などを行います。歯科技工士は入れ歯、差し歯、銀歯など患者に歯と笑顔を届けます。

老後も自分の歯で楽しく明るい生活を送るために、「8020運動」=「80歳になんでも健康な歯を20本残そう!」と言う目標を掲げ、取り組んでいます。このような目標の背景には日本人の

入れ歯人口の増加にあります。平成5年から平成23年の間に1人の入れ歯の数は約2倍になり、日本人の6人に1人が入れ歯、という現実があります。

歯は、患者さんに合わせてすべて手作りのオーダーメイドなので、日本人の器用さが役に立ち、海外進出などもしています。矯正器具やマウスピースなども、その人に合うものを多くの時間をかけて作るのです。今年は東京オリンピックもあり、マウスピースを使う競技もあるので、日本人の器用さを、より世界に発信していく機会があるのではないかと思いました。

私は、今回横浜歯科医療専門学校へ行って、私たちの歯は、歯科衛生士さんや歯科技工士さんに支えられている部分が多くあるのだ、と言うことを改めて実感しました。

みなとみらいにある歯科の専門学校

小6 小林 廉



横浜歯科医療専門学校(みなとみらい学園)は歯科衛生士(えいせいし)と歯科技工士(ぎこうし)の2つの学科があります。以前は平沼の方にあって、2つの学科は別のビルでしたが、名前をみなとみらい学園と変えて、みなとみらいに場所をうつしました。

歯科衛生士と技工士は、どちらも国家資格です。この学校の卒業生は、全員が国家資格に合格しています。

現在日本では、80才によくかかる20本の歯をのこす「8020運動」をしています。この取り組みを始めてから、80才になった人の、よくかかる歯の本数が少しづつ増えているそうです。

入れ歯と同じざらりようで指の形をとる体验もしました。この体验では、しばらく指をうごかしてはいけないので、少し大変だったけど、上手くできました。他にも運動ができるスタジオや食事ができるカフェもあり、一見会社に必要がないように思えるものもありました。

しかし、そこがミソなのだそうです。オープンスペースにして、お客様に楽しんでもらうことで、多様な人の考え方やその出会いを研究につなげることができます。それらのアイデアは化粧品だけでなく、ヘルスケアや美容食品、レストランやその他の小売りなど、さまざまな事業に取り入れているそうです。

今回お話をうつさった倉橋さんは「お客様の多様化、社会の変化、テクノロジーの進歩に合わせて、我々も変わらなければならぬ」とおっしゃっていました。創業時のソーダを始め、ついに変化し続けてきたからこそ、資生堂は今も人々に愛されているのだと思います。

資生堂は、1872年にできた、世界でも有名な資生堂品の会社です。今みなとみらいに S/Park のせつができましたばかりです。資生堂は二年

に一度の、世界のけしきょう品のオリエンピックで、二十六回優勝しています。これは世界でいちばん一番多い回数です。

S/Parkは、今までの資生堂とはちがい、一階、二階はだれでも入れるようにしました。入れるようにした理由は、お客様にぴったりのけしきょう品を作るためです。お客様とちょくせつ会って話すことで、新しいけしきょう品を作るアイデアが生まれるのです。

僕は、資生堂はけしきょう品だけだと思っていたけど、その他の食品や飲み物などをつくっていたのでびっくりしました。

変化し続ける資生堂

中3 山本 承太郎



資生堂は日本一の売り上げを誇る化粧品会社です。しかしながら、資生堂は化粧品以外にもさまざまな事業を展開しているということを知っていました。

資生堂の新研究開発拠点である S/Park は、みなとみらい本町小学校の横にあります。取材の待ち合わせをした一階のモニターは、想像以上に大きく、映像がとてもきれいでいた。これは、ソニーが開発した世界最大の LED ディスプレイなのだそうです。

歯科衛生士と技工士は、どちらも国家資格です。この学校の卒業生は、全員が国家資格に合格しています。

現在日本では、80才によくかかる20本の歯をのこす「8020運動」をしています。この取り組みを始めてから、80才になった人の、よくかかる歯の本数が少しづつ増えているそうです。

入れ歯と同じざらりようで指の形をとる体验もしました。この体验では、しばらく指をうごかしてはいけないので、少し大変だったけど、上手くできました。他にも運動ができるスタジオや食事ができるカフェもあり、一見会社に必要がないように思えるものもありました。

しかし、そこがミソなのだそうです。オープンスペースにして、お客様に楽しんでもらうことで、多様な人の考え方やその出会いを研究につなげることができます。それらのアイデアは化粧品だけでなく、ヘルスケアや美容食品、レストランやその他の小売りなど、さまざまな事業に取り入れているそうです。

今回お話をうつさった倉橋さんは「お客様の多様化、社会の変化、テクノロジーの進歩に合わせて、我々も変わらなければならぬ」とおっしゃっていました。創業時のソーダを始め、ついに変化し続けてきたからこそ、資生堂は今も人々に愛されているのだと思います。

水道局の研修施設

小3 渡邊 永真



お水は家の水道のじゃ口を開くといつても出てくるので、あってあたり前と思っていました。そのお水がどんなふうに家まで送られてくるかを横浜市の水道局で教えてもらいました。

行ってきた場所は、中村ウォータープラザ内の管路研修施設です。ここは水道の工事をする人が勉強をする場所で、配管をつなぎたり、水もれの場所を調べたり、と工事の方法を学べます。

私が行った時も、たくさんの人が授業を受けていました。水の中で配管の穴を直す授業を見学しましたが、すごく難しそうで、私にはムリ、でかいなと思いました。

水道の配管がこわれてしまうと、直すのがとても大変という事が分かったので、水のムダ使いはやめようと思いました。

水道局の仕事を見に行ってきた!

中1 矢吹 春大



僕は水道局が何をやっているか知りませんでした。それでどんなことをしているか知りたくて、水道局に行きました。

水道局の施設「中村ウォータープラザ内の管路研修施設」は、平成29年9月に出来た、まだ新しい施設です。水道局の仕事は、いろいろあります。漏水、水漏れを直すのは重要な仕事です。漏水、水漏れは、1.断水して水を止める。2.漏水したところを切り取って材料をつけて修理をする。という仕事です。

漏水を放つておいた場合どうなるのかを見せてもらいました。水の圧が溜まって20キログラムのものを吹き飛ばしてしまうほど力があるのにびっくりしました。

そのさまざまな魅力を館長の筒井さんが話してくださいました。

魅力がいっぱい!
カップヌードルミュージアム

小5 田家 一芭



横浜市桜木町で新市庁舎が建設されていることを知っています。まだ工事中で、建物の中はまだ見学することができませんが、一足先に市役所の方に取材をしてきました。現在隣の建物の中に新市庁舎を準備する部署があります。

今、市役所は閑内にあり、閑外の本市庁舎とその周辺ビルを借りて、民間のビルの中、約20ヶ所にわかれています。その分かれている部署を、全部ひとつにまとめた市庁舎をつくります。建物は地下2階、地上31階、計33階建てで、階段の段数は、東京タワーよりも多い870段あります。何よりもスゴいのは、屋根付き広場です。3階分の高さがあり、とても広くなります。1階分でも十分広うなのに、それが3階分の高さもあると、もう室内じゃないみたいですね。そこでのさまざまなイベントも企画しているそうです。

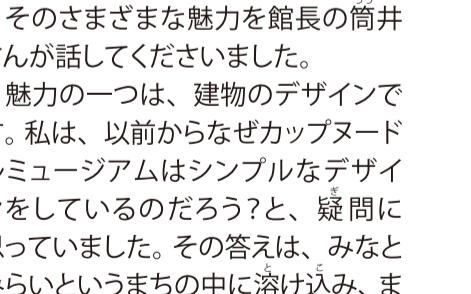
今回建設中の新市庁舎を取材して、市庁舎を少し身近に感じました。

NHKの連続テレビドラマの「まんぶく」は、安藤百福さんのことを描いたドラマでした。放送されたことで、さらにカップヌードルミュージアムの人気がでて、ミュージアムにくる人が以前より約1.5倍増えたそうです。

カップヌードルの容器のデザインには、小さいビックリマークがいっぱいあります。容器の白と赤のシンプルなビックリマークのデザインには、日々の小さな発見にも疑問をもってほしいという気持ちが込められています。他にも、大切にしていることとして、どくにお手洗いはいつもせいけつにしているそうです。お客さんのことを第一に考えていてすばらしいと思いました。

ヨコハマグランドインターナショナルホテル

小4 松山 もこ



このホテルは、みなとみらいで最初にできたホテルで、客室は594室もあって1部屋に2人ずつ泊ると約1,200人の人がホテル内にいることになるそうです。このホテルには、街の風景が見える客室と海の風景が見える客室があります。22階のスイートルームを見せてもらいました。このスイートは最高で31万円も

するとても高級な客室で、1つの部屋で街の風景も海の風景もどちらも見られます。しかもバスルームからは海の景色が見てお風呂にゆったりとつかながらリゾート気分が味わえるんです。

レストランは、中国料理やフランス料理、イタリア料理そして日本料理があり、開店前のお店を見学させてもらいました。

筒井さんは、世代を超えてカップヌードルミュージアムに来てほしいと言いました。こどもだった人が大人になり、自分の子どもを連れてもう一度きててくれるような、そんなミュージアムでありたいと思っています。そんな強い気持ちがあるからこそ、カップヌードルミュージアムには、多くの魅力があるんだと思いました。

ひみつがいっぱい!
カップヌードルミュージアム

小5 田家 一芭



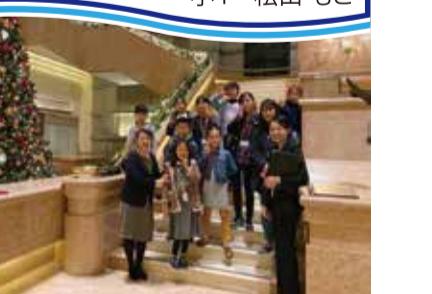
カップヌードルミュージアムにいきました。なんと1年間に約100万人の人たちがカップヌードルミュージアムに来ています。外国人はその中で15%もいるそうです。

NHKの連続テレビドラマの「まんぶく」は、安藤百福さんのことを描いたドラマでした。放送されたことで、さらにカップヌードルミュージアムの人気がでて、ミュージアムにくる人が以前より約1.5倍増えたそうです。

カップヌードルの容器のデザインには、小さいビックリマークがいっぱいあります。容器の白と赤のシンプルなビックリマークのデザインには、日々の小さな発見にも疑問をもってほしいという気持ちが込められています。他にも、大切にしていることとして、どくにお手洗いはいつもせいけつにしているそうです。お客さんのことを第一に考えていてすばらしいと思いました。

ヨコハマグランドインターナショナルホテル

小4 松山 もこ



このホテルは、みなとみらいで最初にできたホテルで、客室は594室もあって1部屋に2人ずつ泊ると約1,200人の人がホテル内にいることになるそうです。このホテルには、街の風景が見える客室と海の風景が見える客室があります。22階のスイートルームを見せてもらいました。このスイートは最高で31万円も

「みなとみらいでボニーとあそぼう!」というイベントについて実行委員の松本さんに取材しました。このイベントを始めたきっかけは、新港パークなどでボニーの乗馬体験をやっていったNPO法人マメボニーさんが、みなとみらいで続けたいという話があり、高島中央公園でイベントをやってみたかった松本さんも協力をして開催することになったそうです。

このイベントは、高島中央公園、MMテラス前、高島水際線公園で年に4回やっていて、2才から小学4年生までボニーのエサやりや乗馬体験ができます。

ボランティアも募集しているそうです。年齢は、3年生～上履なしで楽しんでやってくれる人に来てもらいたいそうです。私は何回かボランティアで参加したことがあります。近所の人達と仲良くなれたり、違う学校のお友達ができたり、とても楽しいです。友達と一緒に参加するのも楽しいです。

きょうみのある人は、声をかけてください。

これからの未来へ～SDGs 未来都市・環境絵日記展

小5 山本 未来



大さん橋ホールで行われた「SDGs未来都市・環境絵日記展2019」を取材し、横浜市資源リサイクル事業協同組合の清水千善さんにお話を聞きました。

環境絵日記とは、「みんなでつくるSDGs未来都市」をテーマに、これからどんな横浜にしたいかを考え、絵日記に表すというものです。今年は約一万五千作品が集まりました。会場には19のブースがあり、それぞれのブースが世界の環境がもっとより良いものになるために、工夫して取り組んだことを紹介していました。

清水さんは、SDGsについて「仕事を見直すチャンス。新しい価値が生まれ、期待している」「SDGsを子どもたちの時から知り、大切にする社会を目指すために今の仕事を続け、環境絵日記を横浜市から全国へ広げたい」と言っていました。また、「環境絵日記を書くことで、大人と、未来の環境について話し合う機会が増えるので、ぜひ取り組んでほしい」と、こどもたちへのメッセージをもらいました。

今、日本では人口の約20%しかSDGsのことを知っている人がいません。私は、今回の取材をして、未来のことをしっかり子どもたちが考えるのは大切なことだと感じました。私も自分のクラスにSDGsを紹介して広げていきたいと思います。